

文部科学省 初等中等教育等振興事業委託費による委託事業
平成 25 年度教員の資質能力向上に係る先導的取組支援事業成果報告書

小中学校・高等学校・支援学校
特別支援教育コーディネーターアドバンス研修
大阪大谷大学と大阪府教育委員会の連携研修

大阪大谷大学

Ohsaka Ohtani University

教育学部

はじめに

文部科学省が公募した「平成 25 年度教員の資質能力向上に係る先導的取組支援事業」に、大阪大谷大学教育学部は、「特別支援教育コーディネーター（小・中・高・特別支援学校）アドバンス研修 ―中級から上級レベルのスキルアップ・プログラムの開発―」の研究を申請し、採択されました。このたび、その実施成果を公表する報告書を刊行する運びとなりました。

平成 19 年 4 月から特別支援教育が本格実施となり、その体制整備と実践の定着が図られてきました。今後は、インクルーシブ教育システムの構築を踏まえた実践のさらなる深化・充実が求められ、その推進役となる特別支援教育コーディネーターの役割はいっそう重要になってきています。

本学教育学部では、特別支援教育専攻を設置し、高い専門性と実践力をもつ特別支援教育に強い教員養成をめざすとともに、現職教員を対象とした継続した研修や多様な研究に着手しています。その一環として今回、特別支援教育コーディネーターに高度な専門性を育成するアドバンス研修プログラムの開発と実証に取り組み実践してきました。

本プログラムは、実際にコーディネーターとして実践されている教員に中級から上級レベルのスキルアップをめざすプログラムとして開発し、地域や学校でのコーディネートができるより高度な専門性を有するコーディネーター養成を目的としています。その教員が中核となってその後専門性を伝達・継承していくというシステム構想を描いていることが特徴です。実施にあたっては、連携先の大阪府教育委員会に多大なご支援を賜りました。

この 1 年間の成果を集約した報告書が活用され、特別支援教育に関する研修の在り方や、特別支援教育コーディネーターの上級研修の在り方に関心をもつ多くの方々にご高覧いただけることを期待しています。

最後に、本研究にご協力いただきました皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成 26 年 3 月

大阪大谷大学

学長 笠井 高芳

目次

◇はじめに

I 成果報告

成果報告書	P 4
*別紙1(研修内容)	P27
*別紙2(個別の研修計画:実例)	P28
*別紙3(研修評価アンケート)	P31
研修オリエンテーション資料	P32

II 研修成果

アセスメントスキル	P41
プレゼンテーションスキル	P68
巡回相談スキル	P118
授業コンサルテーションスキル	P129

◇研修者一覧	P145
--------	------

◇編集にあたって	P146
----------	------

小中学校・高等学校・支援学校

特別支援教育コーディネーターアドバンス研修

—中級から上級レベルのスキルアップ・プログラムの開発—

I. 成果報告

文部科学省

初等中等教育等振興事業委託費による委託事業

平成 25 年度「教員の資質能力向上に係る先導的取組支援事業」

成果報告書

プログラム名	特別支援教育コーディネーター(小・中・高・特別支援学校)アドバンス研修—中級から上級レベルのスキルアップ・プログラムの開発—
特別支援教育を推進する専門性の高い特別支援教育コーディネーター養成をめざしたアドバンス研修として、4つのスキル(アセスメントスキル、巡回相談スキル、プレゼンテーションスキル、授業コンサルテーションスキル)の習得を機軸とした実践的な研修カリキュラムを開発する。	

研修期間：平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月

平成 26 年 3 月
大阪大谷大学教育学部

1. 本事業における取組の目的

平成19年4月から特別支援教育が本格実施となり、小中学校、高等学校、特別支援学校のそれぞれの校種に応じた支援体制整備が図られ、実践の展開とともに、地域のネットワークづくりや関係機関との連携構築が推進されてきた。そして、平成24年12月の文部科学省「通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国実施調査」において、通常の学級に在籍する支援が必要な児童生徒は少なくとも6.5%在籍している可能性が示され、通常の学級における支援（授業づくり・集団づくり）の充実が重要な課題となっている。今後はさらに、「ともに学び、ともに育つ共生社会」をめざしたインクルーシブ教育システムの構築を踏まえた特別支援教育のさらなる深化・充実が求められている。

こうした中、その推進役となる特別支援教育コーディネーターの役割はいっそう高まり、さらなる専門性の向上と幅広いネットワークの拡充は重要な課題となっている。

本事業は、平成19年度から6年間継続実施している「特別支援教育コーディネーターアドバンス研修」の実績を継承・発展することを趣旨として、平成25年度から上記の課題に対応した新たなスキル研修を加えて、「小中学校、高等学校、支援学校特別支援教育コーディネーターアドバンス研修」を企画した。

本研修プログラムは、他の教員をスーパーバイズできる、より高度な専門性を有する教員を養成し、その教員が中核となってその後専門性を伝達・波及していくというシステムづくりをめざして企画・立案している。また、研修期間内の参加者に協働の機会を提供し、研修終了後の教員間のネットワーク拡充の基盤となることもねらいとしている。

特別支援教育を推進する専門性の高い特別支援教育コーディネーター養成をめざしたアドバンス研修（上級研修）として、4つのスキル（アセスメントスキル、巡回相談スキル、プレゼンテーションスキル、授業コンサルテーションスキル）の習得を機軸とした実践的な研修を実施する。

こうした高度な専門性向上を目的とした研修は、公平性や希望制を基本とする公的な(大阪府として実施する)研修の中で実施していくことは難しい。そのため、大学が主体となって研修カリキュラムを企画・実践・評価・改善していく本事業は、重要な意義を持つものと考えられる。その成果は、今後の大学と教育委員会との連携研修モデルとして、他の地域への波及効果も目的としている。

2. 研修内容

専門性の高い小中学校・高等学校・支援学校の特別支援教育コーディネーター養成をめざしたアドバンス研修として、身につけるべき必要な知識・技能の機軸を4つに集約し、少人数制で実践的に研修を深めた。

※別紙1に全18回の研修日程・内容・講師等の一覧を示した。

- (1) 障害のある子ども一人ひとりのニーズを把握し、適切な指導計画を作成・実施・評価するための「アセスメントスキル」
(計4回の研修で実施：第7、8、9、10回)
 - ①演習：アセスメントの基礎理論(行動観察、情報収集、検査法)
 - ②実習：WISC-IV検査法の実施・解釈スキル演習
 - ③演習：モデル事例の総合解釈
 - ④演習：個別の指導計画への活用

- (2) 校内及び地域の教育相談等を担当するための「巡回相談(教育相談)スキル」
(計5回の研修で実施：第2、3、13、14、17回)
 - ①実習：保育所、幼稚園への巡回相談実習
(事前準備、行動・保育観察、相談実習、報告書の作成等)
 - ②実習：高等学校への巡回相談実習
(事前準備と情報分析、事例検討の進め方等)
 - ③実習：特別支援学校、専修学校への巡回相談実習
(事前準備と情報分析、事例検討の進め方等)

(3) 校内及び地域の研修・啓発を担当するために必要な「プレゼンテーションスキル」

(計4回の研修で実施：第4、12、15、16回)

① 講義：プレゼンテーションの意義・活用・倫理

② 演習：プレゼンテーションの基礎・応用スキル

③ 演習：プレゼンテーションの作成演習

(模擬校内研修、模擬外部講師研修、模擬発達障害研修)

④ 演習：プレゼンテーション演習と協議

(模擬校内研修、模擬外部講師研修、模擬発達障害研修)

(4) すべての児童生徒にとって「わかる」授業を展開していくために必要な支援ができる「授業コンサルテーションスキル」

(計2回の研修で実施：第5、6回)

① 講義：授業コンサルテーションスキルとは

② 演習：授業改善に活用できる動画教材の作成

これら4つのスキルを全般的に研修することを前提としながら、受講者のニーズに応じて中心となるコースを選択し(アセスメントスキルコース、巡回相談(教育相談)スキルコース、プレゼンテーションスキルコース、授業コンサルテーションスキルコース)、個人の目標に即した研修計画を立てて、自己研修のP-D-C-Aサイクルに基づいて研修を進めていった。

以上の研修内容に加えて、第11回研修において、「教育課題研修」を行った。本研修修了者は、各地域における特別支援教育コーディネーターとしての役割が期待されており、学校間連携と専門性向上の在り方や、小中学校・高等学校の地域支援体制についての課題を意識化する必要性が考えられた。そこで、小中学校・高等学校・特別支援学校の他校種の教員間での教育課題に関する情報交換・協議を行った。

※別紙2に個別の研修計画の実例を示した。

3. 研修の実施形態について

本研修プログラムの受講者は、各勤務校にてコーディネーターとしての役割を担っている教員である。したがって、基礎スキルを有している上に、さらにスキルアップを目指したアドバンス研修（上級研修）の位置づけであることから、本研修の実施形態は、演習・実習・討議を中心に構成している。

なお、巡回相談（教育相談）研修については、大学と保育所、幼稚園、高等学校、特別支援学校、専修学校とが連携し、大学教員が担当する通常の巡回相談に、本研修（実習）を重ねて実施することの了解を得て進めた。全18回の実施形態は、次の通りである。

回	日程(会場)	実施形態
1	研修オリエンテーション (大阪大谷大学)	講義・討議
2・3	巡回相談(教育相談)スキル研修 (保育所、幼稚園)	巡回相談実習
4	プレゼンテーションスキル研修 (大阪大谷大学)	講義・演習
5・6	授業コンサルテーションスキル研修 (大阪大谷大学)	講義・演習
7・8	アセスメントスキル研修 (大阪大谷大学)	演習・実習
9・10	アセスメントスキル研修 (大阪大谷大学)	演習・実習
11	本カリキュラムの中間振り返り及び教育課題研修 (大阪府教育センター)	演習・討議
12	プレゼンテーションスキル研修 (大阪大谷大学)	講義・演習
13・14	巡回相談(教育相談)スキル研修 (高等学校)	巡回相談実習
15・16	プレゼンテーションスキル研修 (大阪府教育センター)	演習・討議
17	巡回相談(教育相談)スキル研修 (特別支援学校・専修学校)	巡回相談実習
18	研修総括 (大阪大谷大学)	講義・討議

4. 研修の実施方法、進め方、留意事項について

(1) 研修の実施方法

① 大学の実施体制について

カリキュラムの開発及び実施にあたっては、特別支援学校教諭や大阪府教育センター特別支援教育担当指導主事としての経験をもち、特別支援学校や幼稚園、小中学校等の現職教員に対する指導経験が豊富な教授が中心となった。発達に遅れのあ
る幼児児童の教育プログラム開発の経験をもつ教授は、行動観察やアセスメントのカリキュラム作成、巡回相談や子育て支援への助言に豊富な経験をもつ准教授、専任講師は、カウンセリングマインドの育成の視点からカリキュラム作成に関わった。

また、プレゼンテーションスキルに関しては、情報教育担当教員と連携する等、チームプロジェクトとしての体制で研修を実施した。

② 大学と教育委員会の連携及び研修会場

毎回の研修会には大阪府教育委員会指導主事や、大阪府教育センター指導主事が参加し、研修内容や進め方についての意見交換を行った。

研修会場については、大阪大谷大学を基本としながら、計3回の研修を大阪府教育センターで、巡回相談（教育相談）研修については、保育所・幼稚園が計2回、高等学校巡回相談計2回、特別支援学校・専修学校が1回を研修会場として実施した（各個人としては3～4校園の巡回相談研修に参加した）。

(2) 研修の進め方について

- ① 大阪大谷大学と大阪府教育委員会の担当者が協議して、アドバンス研修として必要な内容や要素を選定した。大学の研修計画の趣旨を踏まえて、大阪府教育委員会として主体的な連携・活用の在り方が検討され、双方の主体性が融合された研修カリキュラムの開発・実践を進めた。

- ② 研修参加者の応募については、大阪大谷大学が大阪府教育委員会を通じて、市町村教育委員会に研修案内を行った。結果 39 名の参加が決定した。
- ③ 計 18 回の単発研修ではなく、一年間の継続研修としての位置づけと、毎回の評価を計画的・継続的に行った。
- ④ 研修修了者 39 名に、研修修了証を授与した。
- ⑤ 全研修終了後、事後評価として、6 か月後、1 年後に学校及び本人にアンケート調査を実施する予定である。

5. 研修成果について

(1) 研修の実施日程・内容・評価

< 第1回研修 >

① 日 時 平成25年5月21日(火) 14:00～17:00

② 会 場 大阪大谷大学

③ 日程・内容

時間	内容	講師等
14:00～14:15	あいさつ 大阪大谷大学教育学部長より 大阪府教育委員会より	大阪大谷大学 教育学部 学部長 大倉 孝昭 大阪府教育委員会事務局 支援教育課支援学級グループ 主席指導主事 矢木 克典
14:15～14:45	研修講師及び研修者等の紹介	大阪大谷大学 教育学部 教授 岡崎 裕子(心理) 教授 小田 浩伸(教育) 准教授 落合 利佳(医学) 講師 本吉 大介(心理)
14:45～15:00	休憩	
15:00～15:40	研修オリエンテーション ①アドバンス研修の目的と内容について ②研修の進め方と評価について ③個別の研修計画の作成について	大阪大谷大学 教育学部 教授 小田 浩伸 講師 本吉 大介
15:40～16:40	講義 「特別支援教育コーディネーター・アドバンス研修でめざす専門性について」	大阪大谷大学 教育学部 教授 小田 浩伸
16:40～17:00	事務連絡	

④ 研修評価

第1回研修は、研修オリエンテーションとして、研修会講師と研修参加者の自己紹介、研修の目的、内容、期待される効果、研修後の役割等について講義形式の研修を行った。本研修を進めていく上で、研修の計画、実践、評価の過程を明確にするために、個別の研修計画を作成することを課題として提示した。

個別の研修計画からは、授業改善コンサルテーション、アセスメント、教育相談、プレゼンテーションのそれぞれに研修の期待を抱いていることがうかがわれた。

＜第2・3回研修＞

- ①日 時 平成25年6月10日(月)9:30～17:00
 6月11日(火)9:30～17:00
 6月18日(火)9:30～17:00
 6月20日(木)9:30～17:00
- ②会 場 ○○市立○○幼稚園、○○市立○○保育所(4園)
- ③日程・内容

時間	内容	講師等
9:30～10:00	オリエンテーション ○○市教育委員会 ○○市子育て支援センター ○○市立幼稚園長 ○○市立保育所長	教育委員会指導主事 子育て支援センター長 幼稚園長 保育所長 大阪大谷大学 大阪府教育委員会
10:00～12:00	保育参観1(自由遊び・設定保育等)	大阪大谷大学 教育学部 教授 小田 浩伸 講師 本吉 大介
12:00～13:00	昼食・休憩	
13:00～13:45	保育参観2(帰りの準備、終わりの会等)	大阪大谷大学 教育学部 教授 小田 浩伸 講師 本吉 大介
13:45～14:15	教育相談への打ち合わせミーティング ①相談研修の役割分担 ②事例の検討	大阪府教育委員会事務局 支援教育課 指導主事 大阪府教育センター
14:15～16:15	<相談スキル実習> 教育相談	支援教育研究室 指導主事
16:15～16:50	研修者ミーティング ①相談研修の振り返り ②まとめ	
16:50～17:00	事務連絡	

④研修評価

大阪大谷大学と○○市教育委員会が連携し、幼稚園・保育所巡回相談を4日間に分けて実施した。巡回相談の流れとしては、午前から午後にかけて保育参観、子どもたちの降園後に事例検討会や相談実習を行い、終了後に同行した大学教員等から、相談に関する助言が行われた。

本研修の参加者は小、中学校、高等学校、支援学校の教員であり、幼稚園や保育所での子どもの姿を参観することで、生涯発達の視点を得ることができたという感想が多くみられた。

< 第 4 回 研 修 >

① 日 時 平成 2 5 年 7 月 9 日 (火) 1 4 : 0 0 ~ 1 7 : 0 0

② 会 場 大阪大谷大学

③ 日 程 ・ 内 容

時間	内容	講師等
14:00~14:05	あいさつ 日程及び研修目的・内容の説明	大阪府教育委員会事務局 支援教育課調整グループ 首席指導主事 島津 邦廣 大阪大谷大学 教育学部 教 授 小田 浩伸
14:05~15:30	演習「プレゼンテーションスキル演習」 ①プレゼンテーションの基礎・応用スキル ②プレゼンテーションの作成演習 ・各種効果の操作スキル ・動画の取り込みスキル ・効果的なプレゼンテーションスキル	大阪大谷大学 教育学部 講 師 本吉 大介
15:30~15:50	移動・休憩	
15:50~16:50	講義「プレゼンテーション論」 ①プレゼンテーションの意義・活用・倫理 ②昨年度の成果紹介 討議「授業のユニバーサルデザインをテーマにしたプレゼンテーションについて」	大阪大谷大学 教育学部 教 授 小田 浩伸 講 師 本吉 大介 大阪府教育委員会事務局 支援教育課調整グループ 首席指導主事 島津 邦廣
16:50~17:00	事務連絡	

④ 研 修 評 価

プレゼンテーションスキル研修の第1回目として、意義・活用・倫理に関する基礎知識に関する講義と、プレゼンテーションのための各種効果、配布資料のスライドサイズを大きくすることや、背景色と文字に用いる色のコントラスト、動画の取り込み等のスキル演習を行った。また、著作権や個人情報の扱い等の配慮の仕方について説明した。

研修受講者からは「知っているようで意外と知らなかった操作方法などがあったので、パワーポイントの操作や、わかりやすい資料作りに特化する研修もありがたいと思った」、「研修担当を任せられているので、パワーポイントでのプレゼンテーションスキルを身につけられるようがんばりたい」という感想があった。

< 第 5・6 回 研修 >

① 日 時 平成 25 年 8 月 20 日 (火) 9:30 ~ 17:00

② 会 場 大阪大谷大学

③ 日程・内容

時間	内容	講師等
9:00~9:40	あいさつ 大阪府教育委員会より 日程及び研修目的・内容の説明	大阪府教育委員会支援教育課 指導主事 林田 健祐 大阪大谷大学 教育学部 教授 小田 浩伸
9:40~10:50	講義 ①授業コンサルテーションスキルとは ②モデル動画・写真・教材作成の意義	大阪大谷大学 教育学部 教授 小田 浩伸
10:50~11:00	休憩	
11:00~12:00	協議：グループ毎の政策内容の検討・決定 ①授業コンサルテーションに役立つモデル教材 ②授業における一場面のモデル動画 ③模範板書・教室環境整備の工夫・ハンドサイン	大阪大谷大学 教育学部 教授 小田 浩伸 講師 本吉 大介
12:00~13:00	昼食・休憩	
13:00~16:00	演習：授業コンサルテーションに役立つ教材の作成 ①グループ毎の教材作成 ②ビデオ・写真撮影・教材の製作 ③作成した教材の説明と紹介	大阪府教育委員会支援教育課 指導主事 林田 健祐
16:00~16:50	研究協議・情報交換 「わかる」授業づくりのコンサルテーション ①作成した教材の活用と評価について ②集団性と個別性の支援の在り方について	
16:50~17:00	事務連絡	

④ 研修評価

授業コンサルテーションスキル研修として、午前（第5回）は授業コンサルテーションスキルに関する講義と、実際に授業改善に活用できる教材についてグループ毎に協議を行った。午後（第6回）は授業改善に用いることのできる教材を作成した。

教材のテーマとしては「授業の進め方」、「板書の工夫」、「車いすの操作の仕方について」、「授業中のルール」等であった。主に動画を用いた教材が多く、複数の場面を見て良い授業、改善が必要な授業の特徴を分析・判断することで、自分自身の授業評価にも活かされる内容であった

実際の動画の編集は大阪大谷大学で実施した。今後は撮影した動画の編集・活用スキルも今後の課題である。

<第7・8・9・10回研修>

①日 時 平成25年8月22日(木)9:30~17:00

8月23日(金)9:30~17:00

②会 場 大阪大谷大学

③日程・内容

回	日時	内容	講師等
7 ・ 8	8月22日(木) 9:30~17:00	①特別支援教育における ・アセスメントの意義と方法(講義) ・アセスメント法(行動観察、検査、情報収集) ②WISC-IVの概要と実際(演習・実習) ・WISC-IVの概論 ・WISC-IIIからの改定による変更・改善点 ・検査技術演習	大阪大谷大学 教育学部 教授 小田 浩伸 講師 本吉 大介 大阪府教育委員会支援教育課 支援学級グループ 指導主事 齋藤 博
9 ・ 1 0	8月23日(金) 9:30~17:00	①WISC-IVの結果の整理と解釈(演習・実習) ・プロフィール作成演習 ・事例解釈演習 ②WISC-IV活用事例の解釈 ・演習事例を通して ③検査報告書の書き方	大阪大谷大学 教育学部 教授 小田 浩伸 講師 本吉 大介 大阪府教育委員会支援教育課 支援学級グループ 首席指導主事 矢木克典

④研修評価

アセスメント研修として、2日間(4回研修分)でWISC-IV検査の実施・解釈・検査報告書の作成・指導への活かし方について研修を実施した。各研修受講者の勤務校ではWISC-IIIを使っていることも多いため、WISC-IVへの改定による変更点、改善点についても説明することによって、新しい下位検査への理解を深めることができた。検査に習熟した受講者は、新しく学ぶ人への支援の演習を実施し、アセスメントの学びを支援する立場からスキルアップを図った。研修受講者からは「WISC-IVの実施・解釈を求められるケースが増えているため、力をつけて対応できるようにしたい」、「機会があれば自分で検査をとりたい」、「実際に子どもたちの個別の教育支援計画や個別の指導計画につながるよう、巡回相談や校内の事例検討会の場で伝えていきたいと思う」など、研修で学んだことが現場実践に即自的につながる研修であった。

<第11回研修>

- ①日 時 平成25年9月2日(月)14:00～17:00
 ②会 場 大阪府教育センター
 ③日程・内容

時間	内容	講師等
14:00～14:10	あいさつ 大阪府教育委員会 日程及び研修目的・内容の説明	大阪府教育センター 教育課程開発部支援教育研究室 室長 土口 千恵子 大阪大谷大学 教育学部 教授 小田 浩伸
14:10～15:00	討議「支援教育の展開における成果と課題」 ・各校種における成果と課題の分析	大阪大谷大学 教育学部 教授 小田 浩伸 講師 本吉 大介
15:00～16:00	演習「ケース会議の進め方」 ・手続き（KJ法とランキング法） ・課題の優先順位を考える	大阪府教育委員会支援教育課 支援学校グループ 指導主事 出浦 美香
16:00～16:10	休憩	
16:10～16:50	研究協議 「本研修の中間振り返り及び支援教育に関する研究協議」 ・今までの研修内容と今後についての情報交換 ・各学校・地域における支援教育の課題について	
16:50～17:00	事務連絡	

④研修評価

討議では、小中学校・高等学校・支援学校の支援教育の成果と今後の課題について各校種に分かれて検討を行い、全体で共有する形式をとった。また、演習では校種を混ぜたグループをつくり、モデル事例を提示し、ケース会議に活用できる手続きとしてKJ法とランキング法について説明し、効率よく課題の焦点化を図る研修を行った。研修受講者からは「いろいろなケース会議に参加したり、主導して進めたりする機会が多いので、研修で得たことを生かしていきたい」「地域支援活動において、ケース会議の持ち方等の相談があった場合に役立てたい」「他校種の先生方とグループを組んでケース会議を行えたことは、見る視点が広がってよかった」など、特にケース会議の持ち方についての意義が感じられる研修であった。

<第12回研修>

①日 時 平成25年10月1日(火)14:00～17:00

②会 場 大阪大谷大学

③日程・内容

時間	内容	講師等
14:00～14:10	あいさつ 大阪府教育委員会 日程及び研修目的・内容の説明	大阪府教育委員会 支援教育課調整グループ 首席指導主事 島津 邦廣 大阪大谷大学 教育学部 教授 小田 浩伸
14:10～15:10	プレゼンテーションスキル演習Ⅰ ①漢字学習における板書の工夫 ②方略を教えるーワーキングメモリーとユニバーサルデザイン ③授業の工夫ー学習体制の工夫	大阪大谷大学 教育学部 教授 小田 浩伸 講師 本吉 大介
15:10～16:55	プレゼンテーションスキル演習Ⅱ 課題テーマ「授業」 「〇〇にとって重要な5つのポイントとは」 ・わかる授業を展開するために必要な5つのポイントとは ・効果的なチームティーチングを進めていくための5つのポイントとは ・授業規律を確立するために必要な5つのポイントとは	大阪府教育委員会 支援教育課調整グループ 首席指導主事 島津 邦廣
16:55～17:00	事務連絡	

④研修評価

2回目のプレゼンテーションスキル研修として、3グループのプレゼンテーションスキル研修成果の中間発表を行い、効果的なプレゼンテーションにするための改善点について討議を行った。また、後半は「〇〇にとって重要な5つのポイントとは」というテーマに沿って、10分程度の簡潔なプレゼンテーションを行った。

研修受講者からは「限られた時間の中でいかにわかりやすくポイントを押さえながら相手に伝えることができるか改めて考えた」「プレゼン資料とともにプレゼンの仕方まで指導してもらう機会はあまりないので、貴重な場だと感じた」「いろいろな先生方と組んでプレゼンを行い、意見交換し合うことが個々の力を高めるのに重要だと思った」等の感想が得られており、聞く側の立場で改めてプレゼンテーションを考える機会となったことがうかがわれた。

<第13・14回研修>

①日 時 平成25年11月8日(金) 10:00～17:00

②会 場 大阪府立〇〇高等学校

③日程・内容

時間	内容	講師等
10:00～10:40	あいさつ 大阪府教育委員会 大阪府立〇〇高等学校長 大阪府立〇〇高等学校の概要説明・実践紹介	大阪府教育委員会 支援教育課調整グループ 首席指導主事 島津 邦廣 大阪府立〇〇高等学校 校長 〇〇〇〇 教頭 〇〇〇〇 大阪大谷大学 教育学部 教授 小田 浩伸
10:40～12:35	授業見学 3限目 10:45～11:35 4限目 11:45～12:35	授業見学 全授業教室公開
12:35～13:20	昼食・休憩	
13:20～14:10	授業見学 5限目 13:20～14:10	授業見学 全授業教室公開
14:10～16:40	①実践報告 「府立〇〇高等学校における発達障がい支援の取組について」 ②小学校、中学校、高等学校、支援学校における発達障がいのある児童生徒支援に関する実践報告・交流会 ③討議 「発達障がい支援、及び、校種間連携のあり方について」	大阪大谷大学 教育学部 教授 小田 浩伸 講師 本吉 大介 大阪府教育委員会 支援教育課調整グループ 首席指導主事 島津 邦廣 大阪府立〇〇高等学校教員
16:40～17:00	相談研修の振り返り 事務連絡	

④研修評価

大阪大谷大学と高等学校が連携し、午前中は自立支援コース生の授業での学びの姿を中心にしながら高等学校全体の授業見学を行った。午後からは、高等学校における支援の取組に関する実践報告、校種間の実践報告・交流会を行った。

実践交流では、高等学校における障がい理解の促しに関する実践事例の紹介、生徒に合わせた作成された教材の紹介が行われ、小中学校、支援学校教員からも、各校種における実践に関する情報交換が行われた。交流及び共同学習の在り方に関する有意義な討議が行われた研修であった。

<第15・16回研修>

①日 時 平成25年12月26日(木) 10:00～17:00

②会 場 大阪府教育センター

③日程・内容

時間	内容	講師等
10:00～10:10	あいさつ 大阪府教育委員会 日程及び研修目的・内容の説明	大阪府教育委員会 支援教育課調整グループ 指導主事 林田 健祐 大阪大谷大学 教育学部 教授 小田 浩伸
10:10～12:00	演習「プレゼンテーション発表Ⅰ」 ①板書の工夫 ②教室環境の整備 ③授業展開の構造 ④視覚支援教材 ⑤授業規律の工夫 等	大阪大谷大学 教育学部 教授 小田 浩伸 講師 本吉 大介 大阪府教育委員会 支援教育課調整グループ 指導主事 林田 健祐
12:00～13:00	昼食・休憩	
13:00～16:30	演習「プレゼンテーション発表Ⅱ」 ①ノートの工夫 ②授業の導入の工夫 ③振り返りの工夫 ④授業の構造化 ⑤ティームティーチングのあり方 等	大阪大谷大学 教育学部 教授 小田 浩伸 講師 本吉 大介 大阪府教育委員会 支援教育課支援学級グループ 指導主事 齋藤 博
16:30～16:50	総括協議・講評 「プレゼンテーションスキル研修の成果と課題」	大阪府教育委員会 支援教育課支援学級グループ 指導主事 齋藤 博 大阪大谷大学 教育学部 教授 小田 浩伸 講師 本吉 大介
16:50～17:00	事務連絡	

④研修評価

プレゼンテーションスキル研修の3回目として、授業のユニバーサルデザインをテーマとした各グループのプレゼンテーションを発表し、プレゼンテーションの内容、様式に関する意見交換を行った。研修受講者同士の意見交換も活発であり、各発表に用意された質疑・応答時間では足りない状況があった。各グループは初任者研修、校内研修、初めて視覚支援学校に赴任した教員対象の研修等、ねらいを絞ったプレゼンテーションであり、本研修の成果物はすぐに現場で活用できるものであると評価できる。

<第17回研修>

①日 時 平成26年1月24日(金)10:00~12:00

1月29日(水)10:00~12:00

②会 場 ○○専修学校(1月24日)

大阪府立○○高等支援学校(1月29日)

③日程・内容

時間	内容	講師等
10:00~10:10	あいさつ 大阪府教育委員会 ○○専修学校長 ○○高等支援学校教頭	○○専修学校 校長 ○○○○ ○○高等支援学校 教頭 ○○○○ 大阪府教育委員会 支援教育課支援学校グループ 指導主事 田路 早苗 指導主事 武田 幸造 大阪大谷大学 教育学部 教授 小田 浩伸
10:10~10:30	学校説明 「○○専修学校の特色について」 「大阪府立○○高等支援学校の取組」	○○専修学校 教頭 ○○○○ ○○高等支援学校 教頭 ○○○○
10:30~11:30	学校見学 施設見学・授業参観	○○専修学校 ○○高等支援学校
11:30~11:50	協議・質疑応答 「学校見学を通して」 ①学校の特色と役割について ②就労支援・キャリア教育について ③小中学校、高等学校、支援学校との連携の在り方について 等	○○専修学校 教頭 ○○○○ ○○高等支援学校 教頭 ○○○○ 大阪大谷大学 教育学部 教授 小田 浩伸
16:50~17:00	事務連絡	

④研修評価

第17回研修は、就労支援・キャリア教育に力を入れている専修学校、高等支援学校にて授業の見学と、各校での取組に関する質疑・応答を行った。研修受講者からは「キャリア教育の必要性は言われているが、実際について学ぶ機会が得られたことは参考になった」「キャリア教育に向けて小学校から社会的スキルを意識する必要性が感じられた」等の感想があり、キャリア教育の充実に向け、各校種が即座に始められる取り組みのヒントが得られた研修であった。

<第18回研修>

①日 時 平成26年2月13日(木) 14:00～17:00

②会 場 大阪大谷大学

③日程・内容

時間	内容	講師等
14:00～14:10	あいさつ 大阪大谷大学 大阪府教育委員会	大阪大谷大学 学長補佐 岡崎 裕子 大阪府教育センター 教育課程開発部支援教育研究室 室長 土口 千恵子 大阪府教育委員会 支援教育課支援学校グループ 指導主事 出浦 美香
14:10～15:30	<講義・討議>「本研修の成果と全体総括」 ①巡回相談(教育相談)スキルについて ②アセスメントスキルについて ③プレゼンテーションスキルについて ④授業コンサルテーションスキル 等	大阪大谷大学 教育学部 学長補佐 岡崎 裕子 教授 小田 浩伸 講師 本吉 大介
15:30～15:40	休憩	
15:40～16:10	<ディスカッション> 「各校種・ステージにおける支援教育コーディネーターの役割と今後の課題」	大阪府教育センター 教育課程開発部支援教育研究室 室長 土口 千恵子
16:10～16:40	<オリエンテーション> ①研修の評価とまとめ(個別の研修計画) ②研修修了後の連携について ③研修成果について 等	大阪府教育委員会事務局 支援教育課支援学校グループ 指導主事 出浦 美香
16:40～17:00	<研修総括> 大阪府教育委員会 大阪大谷大学 研修修了証 授与	

④ 研修評価

研修会の総括として、研修成果物の紹介、支援教育コーディネーターの役割と今後の課題についてのディスカッション、研修修了後の連携等についてのオリエンテーションを行った。

研修受講者からは、教育相談(巡回相談)スキル研修において、保育所、幼稚園、高等支援学校、専修学校と他校種における支援の取組について知ることができたことが貴重な経験であったという感想があった。また、アセスメント研修においてWISC-IVの研修を丁寧に受けられ、その後の支援に活用しているという感想もあがった。終了後に、研修受講者同士が積極的に交流している様子もあり、連携の基盤ができたと評価できる。

(2) 研修の成果

専門性の高い小中学校、高等学校、支援学校の特別支援教育コーディネーター養成をめざしたアドバンス研修として、アセスメントスキル、巡回相談(教育相談)スキル、プレゼンテーションスキル、授業コンサルテーションスキルの4つのスキル習得を軸とした実践的な研修カリキュラムを計18回実施した。

研修成果について、①4つのスキルアップについての成果、②専門性の高いコーディネーター養成研修としての成果、③コーディネーター間のネットワークづくりとしての成果、④大阪大谷大学と大阪府教育委員会との連携についての成果の観点から報告する。

①4つのスキルアップについての成果

アセスメントスキル研修において、WISC-IVにおける知能の概念の理解、検査実施スキル、プロフィール作成、解釈スキル、検査報告書作成スキルの一連のスキルアップを目的として研修を実施した。WISC-IIIからWISC-IVへの移行段階にある研修受講者も多く、WISC-IIIとWISC-IVの違いについて改めて説明することで改めて理解が深まった。検査実施スキルにおいては、検査実施においてはすでに習熟している研修受講者もいたため、これから検査スキルを学ぶ受講者に対して指導・助言の役割を担う実習研修を実施した。指導・助言の役割を担った研修受講者からは「質問を受け、改めて日頃どのようなことに留意して検査を実施しているか振り返ることができた」と感想があり、両者にとって研修の意義のある構造であったと考えられる。

また、「2日続けての研修で、前回の研修のことを忘れないうちに集中的に学べたことがよかった」「プロフィール作成で、以前は計算が難しくついていくのも難しかったが、今回は2日間に分けて丁寧に研修が受けられたのでわかりやすかった」との感想もあり、アセスメントスキル研修の計4回を集中的に実施したことの意義があった。

研修終了後に検査を実施した受講者もあり、実践に結び付く研修

であったと言えるだろう。

解釈スキルや検査報告書作成スキルについては、今後スーパーヴァイズを継続的に受けるなど、研修受講者の主体的かつ継続的な研修が期待される。

巡回相談（教育相談）スキル研修については、多くの研修受講者は小中学校への巡回相談は経験していることから、保育所、幼稚園、高等学校、支援学校、専修学校への巡回相談、訪問の機会を多く設定した。

保育所、幼稚園は支援学級の設定がないため、障がいのある子どもと障がいのない子どもが共に学び共に育つための実践が日々行われている。それらの実践の中から、受講生の勤務校における支援のヒントが多く得られたものと考えられる。

また、高等学校への訪問では、高等学校教員が周囲の生徒に障がいの理解を促した実践や、生徒の特性に合わせて作成された教材について紹介を受けることができ、小中学校、高等学校、支援学校における実践の大きなヒントを得られたことが収穫であった。加えて、高等支援学校、専修学校で就労支援の実際について知ることができ、各校種の中で取り組むべき課題が明らかになったことも有意義であったと言えるだろう。

プレゼンテーションスキル研修においては、研修受講者が校内研修、初任者研修、障がいに対する理解啓発研修を担当することを想定して、研修に活用できるプレゼンテーションスライドや配布資料を作成すること、さらに印象深いプレゼンテーションになるような解説・説明の仕方、話し方について研修を行った。

プレゼンテーションスキル演習のテーマは「授業におけるユニバーサルデザイン」であったが、各校種の受講生が授業における課題について各グループのメンバーと主体的に話し合い、課題解決に向けた実際的なプレゼンテーション資料が作成されたことが大きな成果である。

プレゼンテーション資料には、動画の添付や音声の添付、補足資料としての読み原稿の作成、視覚障がいの特性に合わせた配色の在り方などが実践されており、本研修内容の効果が即時的に確認された。

プレゼンテーション研修は、校内研修等の大人を対象としたものであったが、授業のユニバーサルデザインをテーマとすることで、わかりやすいプレゼンテーションを検討していくことそのものが日頃の授業の在り方をみつめる機会となったものと考えられる。

授業コンサルテーションスキル研修は、通常学級における「わかる」授業を展開し、かつ各学校における他の教員の授業の在り方について助言ができることを目的として設定した研修である。

授業改善に用いることのできる教材作成を行ったが、成果物の多くは動画資料であり、それらの動画を教員同士で視聴しながら日頃の自分の授業の在り方について振り返り、適切な授業展開について考える話題提供となるものであった。

各校種でグループを作り、小中学校、高等学校、支援学校それぞれの授業における課題に焦点を当てたものであり、今後、研修成果物を活用した授業改善の試みが期待できる。

②専門性の高いコーディネーター養成研修としての成果

本研修の受講者はすでに特別支援教育コーディネーターの役割を担っている教員や、今後特別支援教育コーディネーターの役割を期待される教員であった。そのため、研修に対するモチベーションは高く、各校種でグループを組んでの実習や討議、校種間でグループを組んでの実習・討議がスムーズに行われ、かつ各校種内では課題解決に向けた議論の深化、校種間では幅広い視野での支援の在り方についての情報交換が積極的に行われた。

また、コーディネーターの経験に多少のばらつきがあったことにより、経験豊富な教員は指導・助言の研修にもつながり、研修受講者相互に刺激し合える関係での研修実施が行われた。

研修受講者からは「なかなか学校内では特別支援について理解を示し、積極的に取り組もうとする仲間が少なく、特別支援教育の推進に難しさを感じていたが、この研修では各地域の特別支援教育を担う先生方が集まっているため、がんばろうという気持ちになれた」等、お互いのモチベーションを確認し、エンカレッジされる場でもあった。

以上のことから、本研修はより専門性を高める「アドバンス研修」のニーズと求められる役割は大きくなるものと考えられ、今後も継続していく必要性が確認された。

③コーディネーター間のネットワークづくりとしての成果

本研修の受講者は、小中学校、高等学校、支援学校と他校種から構成されることが特徴である。その中で、同じ校種でのネットワークと同時に、他校種の教員とのネットワークを形成することができた。本研修の昼食時間・休憩時間においても積極的な情報交換が行われていたことから、気軽に相談できる関係性が構築され、今後の支援教育の充実に向けた効果的な連携が期待される。

④大阪大谷大学と大阪府教育委員会との連携についての成果

大阪大谷大学と大阪府教育委員会と連携した「アドバンス研修」実施が7年目となり、次の点が連携の成果として挙げられる。

○国や大阪府の施策や課題に対応した内容を適宜プログラムに追加することができた。特に、「通常の学級における特別支援の推進」「わかる授業に向けた授業改善」「切れ目のない支援」等の視点を取り入れた授業コンサルテーションスキル研修や保育所・幼稚園・高等学校・支援学校・専修学校への巡回相談（教育相談）スキル研修が挙げられる。

○毎回の研修に教育委員会指導主事等が参加されていたことにより、本研修で取り組んだ内容を他の研修でも取り入れていく、他の研修で重要視している視点を本研修に対して助言すること等、研修内容の提供や情報交換が行われた。

<別紙1> 平成25年度小中学校・高等学校・支援学校特別支援教育コーディネーターアドバンス研修

回	日程	研修内容	講師等
1	5月21日(火) 14:00~17:00	<事前オリエンテーション及び個別の研修計画の作成> ①アセスメントスキルコースについて ②プレゼンテーションスキルコースについて ③教育相談(巡回相談)スキルコースについて ④授業コンサルテーションスキルコースについて	大阪大谷大学 教育学部教員等 大阪府教育委員会 指導主事等
2 ・ 3	6月10日(月) 6月11日(火) ・ 6月18日(火) 3 6月20日(木) 9:30~17:00	<教育相談(巡回相談)スキル研修(1)> * 保育所・幼稚園への巡回相談実習(事前準備、行動・保育観察、相談実習、報告書の作成等) * 4日間のうち、いずれか1日を選択する	大阪大谷大学 教育学部教員等 大阪府教育委員会 指導主事等
4	7月9日(火) 14:00~17:00	<プレゼンテーションスキル研修(1)> ①プレゼンテーションの意義・活用・倫理(講義) ②プレゼンテーションの基礎・応用スキル(演習) ③プレゼンテーションの作成演習(課題の提供)	大阪大谷大学 教育学部教員等 大阪府教育委員会 指導主事等
5 ・ 6	8月20日(火) 9:30~17:00	<授業コンサルテーションスキル研修(1)(2)> ①授業コンサルテーションスキルとは ②授業コンサルテーションに役立つモデル教材 ③ビデオ・写真撮影・教材の製作	大阪大谷大学 教育学部教員等 大阪府教育委員会 指導主事等
7 ・ 8	8月22日(木) 9:30~17:00	<アセスメントスキル研修(1)(2)> ①アセスメントの基礎理論(行動観察、情報収集、検査法) ②WISC-IV検査法の実際(演習Ⅰ) ③結果の解釈(演習)・協議	大阪大谷大学 教育学部教員等 大阪府教育委員会 指導主事等
9 ・ 10	8月23日(金) 9:30~17:00	<アセスメントスキル研修(3)(4)> ①WISC-IV検査法の実際(演習Ⅱ) ②検査を実施した事例の総合解釈 ③個別の指導計画への活用	大阪大谷大学 教育学部教員等 大阪府教育委員会 指導主事等
11	9月2日(月) 14:00~17:00	<本カリキュラムの中間振り返り及び教育課題研修> ①今までの研修内容と今後の研修内容の在り方 ②学校間の連携と専門性向上の在り方 ③小中学校、高等学校の地域支援体制についての課題等	大阪大谷大学 教育学部教員等 大阪府教育委員会 指導主事等
12	10月1日(火) 14:00~17:00	<プレゼンテーションスキル研修(2)> ①プレゼンテーション演習と協議(模擬:校内研修) ②プレゼンテーション演習と協議(模擬:外部講師研修) ③プレゼンテーション演習と協議(模擬:発達障害研修)	大阪大谷大学 教育学部教員等 大阪府教育委員会 指導主事等
13 ・ 14	11月8日(金) 9:00~17:00	<教育相談(巡回相談)スキル研修(2)> * 高等学校への巡回相談実習(大学教員に同行) ・事前準備と情報分析、事例検討の進め方 ・巡回相談報告書の作成、アフターケアの在り方等	大阪大谷大学 教育学部教員等 大阪府教育委員会 指導主事等
15 ・ 16	12月26日(木) 9:00~17:00	<プレゼンテーションスキル研修(3)> ①プレゼンテーションの実際(準備から当日まで) ②プレゼンテーション演習(効果的な方法・応用等) ③プレゼンテーション教材(スライド・コンテンツ)の共有CD化	大阪大谷大学 教育学部教員等 大阪府教育委員会 指導主事等
17	1月24日(水) 1月29日(金) 14:00~17:00	<教育相談(巡回相談)スキル研修(3)> * 高等支援学校、専修学校への巡回相談実習 ・事前準備と情報分析、事例検討の進め方 ・巡回相談報告書の作成、アフターケアの在り方等	大阪大谷大学 教育学部教員等 大阪府教育委員会 指導主事等
18	2月13日(木) 14:00~17:00	<事後オリエンテーション及び個別の研修計画の評価> ①研修の評価とまとめ(自己目標の評価と今後の課題) ②研修終了後の連携の在り方について ③成果発表・総括	大阪大谷大学 教育学部教員等 大阪府教育委員会 指導主事等

個別の研修計画(1):実例

名前	〇〇 〇〇〇	所属	大阪府立〇〇支援学校
スキル	各スキルにおける自己課題		
アセスメント スキル	<p>◆WISC-IVの解釈スキル、及び検査結果に基づく指導計画立案スキルの向上 (複数の事例で、検査実施→指導計画立案までを、一人でできる力をつける)</p> <p>◆知的障がいのある自閉症の児童生徒を対象とした実態把握スキルの向上 (行動観察のためのチェックリストの開発・活用、既存の検査のテストバッテリー等)</p>		
プレゼンテーション スキル	<p>◆「特別支援教育」「発達障がい」「個別の教育支援計画」「知的障害支援学校における自立活動」等 について、わかりやすく説明するスキルの習得</p> <p>◆わかりやすい話し方、ことばの使い方等についての技術向上</p>		
巡回相談 (教育相談) スキル	<p>◆幼稚園・中学校・高等学校への巡回相談実習 (今まで経験したことのない校種での巡回相談体験)</p> <p>◆学校組織の力を高めるための巡回相談のあり方についての検討 (校内委員会への関わり方、事例検討会の進め方、市教委との連携等)</p>		

本研修における重点課題・目標・内容・評価

重点課題 (優先順位) ◎・○・△	<p>(◎) アセスメントスキル</p> <p>(△) プレゼンテーションスキル</p> <p>(○) 巡回相談(教育相談)スキル</p>
研修目標	◆WISC-IV等の検査結果と、行動特性及び学習状況等をふまえて、一人一人の実態に応じた指導計画を作成することが一人で行える。
研修内容	<p>◆年間5事例以上、検査結果と行動観察をもとに、「個別の指導計画」を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WISC-IVを実施し、検査結果の解釈を行う。 ・行動観察及び保護者や担任からの聞き取りをもとに、本人の教育的ニーズを把握する。 <p>→「個別の指導計画」を作成する。一定期間、取組を行った後で、児童・生徒の変化について検証する。必要に応じて、再計画を行う。</p>
自己評価の観点 (評価の実施時期 : 年度末)	<p>①5事例以上、検査を実施し、「個別の指導計画」を作成できたか。</p> <p>②検査結果と作成した「個別の指導計画」を、第三者に説明できたか。</p> <p>③担任が取り組むことができる、具体的な内容を含む計画を作成できたか。</p> <p>④「個別の指導計画」の評価や再計画ができたか。</p>

個別の研修計画(2): 実例

日時	研修記録(研修内容・場所・自己評価等)	◆校外支援	◇校内支援
5/18 (月) 10:00~17:00	◆〇〇市立〇〇幼稚園巡回相談 内容・授業参観、事例検討→園内委員会(3歳児の事例を3名のチームで担当) 課題・担当者内での役割分担を明確にしなが、事前打合せを行うことが必要である。		
5/15 (火) 15:00~17:30	◆〇〇市立〇〇小学校教育相談 内容・担任・校長・保護者との面談/WISC-Ⅲの実施 課題・検査結果をもとに、通常学級でできる支援を考える力をつけていくこと。		
5/23 (水) 14:00~16:30	◆〇〇研修における研修講師 内容・「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成に向けて(講義・演習) 課題・保育所の実態を知った上で、もう少し具体的な話ができる力が必要である。		
6/27 (水) 9:00~10:30	◇本校小学部児童教育相談(自立活動相談): 校内支援 内容・担任の要望に基づいて、K-ABCを実施 成果・担任の気づきと検査結果を基に、具体的な取組を一緒に考えることができた。		
8/23 (木) 9:30~11:30	◆〇〇市立〇〇小学校校内研修講師 内容・特別支援教育の概要と校内支援体制構築に向けて(講義) 課題・他の学校での校内委員会の実践例を入れてわかりやすく伝える工夫が必要である。		
8/30 (木) 9/7 (金)	◇本校高等部生徒教育相談(自立活動相談): 校内支援 内容・担任の要望に基づいて、WISC-Ⅲを実施 課題・WISC-Ⅳの分析が難しい事例だったため、他の先生に助言を頂いた。		
9/12 (水) 13:00~14:30	◇本校高等部生徒教育相談(自立活動相談): 校内支援 内容・担任・保護者の要望に基づいて、ITPA言語学習能力診断検査を実施 課題・検査場面での気づきを、日常生活場面での関わりはどう活かすか検討が必要である。		
9/21 (金) 10:30~12:00	◇本校高等部生徒教育相談(自立活動相談): 校内支援 内容・担任の要望に基づいて、WISC-Ⅲを実施 課題・生徒の実態について他機関と共通理解を図り、支援を進めることが必要である。		
10/3 (水) 15:30~17:00	◆〇〇市立〇〇園職員研修講師 内容・「個別の支援計画」の作成と活用について(講義・演習) 成果・講義だけではなく、「子どもの行動のとらえ方」についての演習ができた。		
10/15 (月) 10:30~12:00	◇本校高等部生徒教育相談(自立活動相談) 内容・担任・進路担当者の要望に基づいて、ITPA言語学習能力診断検査を実施 課題・進路先(企業)に本人の実態を理解してもらうための伝え方には工夫が必要である。		
11/6 (火) 10:00~17:30	◆府立〇〇高等学校巡回相談 内容・授業参観、事例検討→校内委員会(A生徒の事例を3名で担当) 課題・高等学校が養護学校にどのような支援を求めているかの理解が必要である。		
12/19 (木) 13:30~15:00	◇本校小学部児童教育相談(自立活動相談): 校内支援 内容・担任の要望に基づいて、ITPA言語学習能力診断検査を実施 成果・日常生活の中だけでは気づくことができない本児の特性が明らかになった。		
2/27 (水) 13:30~15:00	◆〇〇市立〇〇小学校教育相談 内容・授業参観/養護学級担任・校長・保護者との面談/WISC-Ⅲの実施 成果・検査結果をふまえ、本人の特性を保護者に理解してもらうことができた。		

【研修目標がどの程度達成されたかについての評価】～自己評価の観点に基づく評価

- ①校外支援・校内支援を合わせて、8事例で検査を実施することができた。また、他の教員が行った検査（検査補助として参加）の解釈については、担当教員とともに3事例行うことができた。
- ②担任や保護者に説明する前に、他の教員に説明する機会をできるだけ設け、その中で検査結果の解釈や具体的な指導方法の意見交換を行う場面を設けた。全ての事例で行うことは難しかったが、やはり『人に説明する』という活動を行うことにより、自分自身で子どもの課題が整理できたり、自分一人では気づけなかったことを指摘してもらうことができ、大変有益であった。
- ③小学校の通常学級でできる指導・支援方法を考えることが特に難しかった。また、小学校・支援学校どちらの事例においても、担任や保護者があらかじめ本人の実態を整理してとらえることができている場合は、検査結果をもとに具体的な取組を考えることがしやすかった。しかし、『本人の特性を理解する』ことが検査を行う目的の中心になってしまった事例もあったのは、反省すべき点であった。
- ④担任とともに目標を決め、一定期間取組を行った後で、評価と再計画を行うことができた（8事例中6事例で実施）。そのことにより、子どもの変化のみならず、指導者側の関わりの工夫等を聞くことができ、今後の相談に活かすことができる情報を収集することができた。

【本研修(1年間)を振り返って成果がみられたこと】

- ◇実態把握（各種検査＋行動観察等）から指導計画作成までの流れについて、どのように情報を整理していくかについてのマニュアルを、自分で作成することができた。また、アセスメント研修の際、指導補助という役割を担ったことを契機に、検査の意義等について再確認することができた。これらのことにより、以前に比べると、『検査をどう指導に活かすか』を論理的に考えることができるようになってきた。
- ◇パワーポイントを活用してプレゼンテーションを行う際、ソフトの技術をたくさん使うことよりも、『プレゼンテーションの目的』を明確にすることがまず大事であるということを学ぶことができた。実際に講義や演習でプレゼンテーションを行う際、ポイントを絞って伝えることが少しずつできるようになってきた。
- ◇幼稚園や高等学校への巡回相談を経験することにより、やはり実際の教育現場がどのような状況にあるのか、まずは実際に自分の目で見ること、そして先生方の話を聞くことが何よりも大事であることに改めて気づくことができた。また、『一人ひとりの子どもを見ること』と『集団の中の一員として子どもを見ること』のバランスをとることができるようになってきた。

【研修全般についての評価】

- ・3つのスキルを高めていく研修内容が総合的に構成されていることが本研修の特徴であると感じた。日頃は、自分の興味のあるところは学ぶ機会もあるが、その他の分野のことについては意識を向けずに過ぎてしまうことが多いので、このような研修の機会は非常に有意義であった。
- ・年度当初に『研修目標』を立てることで、自分自身の課題を明確にすることができた。また、その目標を周りの先生方に伝えることにより、協力を得ながら1年間の研修を進めることができた。

【今後の課題と展望】

- ・アセスメントスキルの向上のために、検査結果を他者に説明し、意見交換を行う場を積極的に設けること。また、他の教員に検査のための技術を伝え、解釈を共に行う機会を増やすこと。
- ・幼稚園、小学校等への巡回相談を通して、『集団の中でできる支援』について考える経験を積むこと。また、他の先生方が行っている事例から学ぶ機会を増やすこと。

別紙3

小中学校・高等学校・支援学校特別支援教育コーディネーターアドバンス研修プログラム(第*回)の評価アンケート

この評価アンケートは、プログラムをさらに有意義なものにするための評価として、ご意見をいただければ幸いです。

記入者：_____

1 第*回の研修内容は、あなたの期待や要望に応えたものでしたか。

ア. 強く思う イ. 思う ウ. 思わない エ. 全く思わない

2 この研修内容は、特別支援教育コーディネーターの養成研修に必要な内容と思いますか。

ア. 強く思う イ. 思う ウ. 思わない エ. 全く思わない

3 研修の内容は充実していましたか。

ア. 強く思う イ. 思う ウ. 思わない エ. 全く思わない

4 この研修内容であれば、他の人に受講を勧めたいと思いますか。

ア. 強く思う イ. 思う ウ. 思わない エ. 全く思わない

5 この研修で得たことを、今後どのようなことに生かしますか。

ア. 地域支援活動 イ. 授業 ウ. 校内支援体制
エ. 自分の研究 オ. 特にない

<具体的に記述してください>

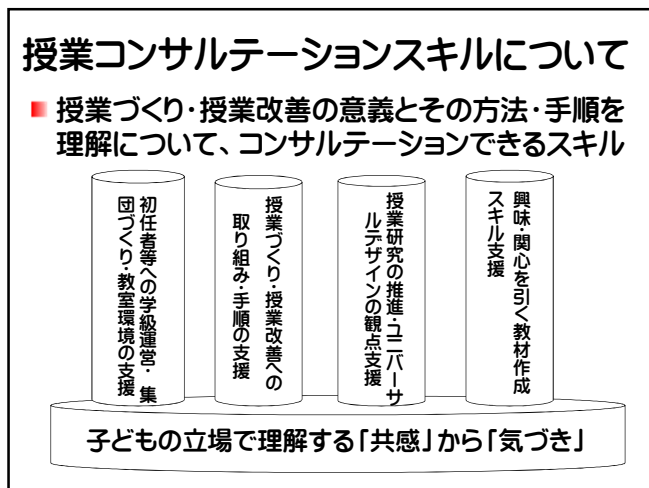
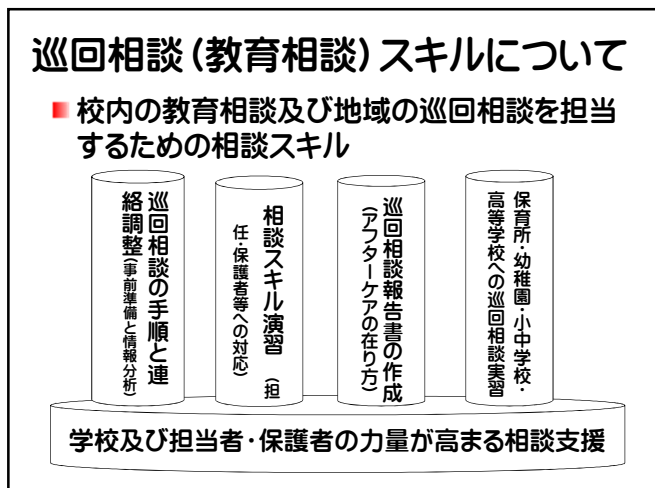
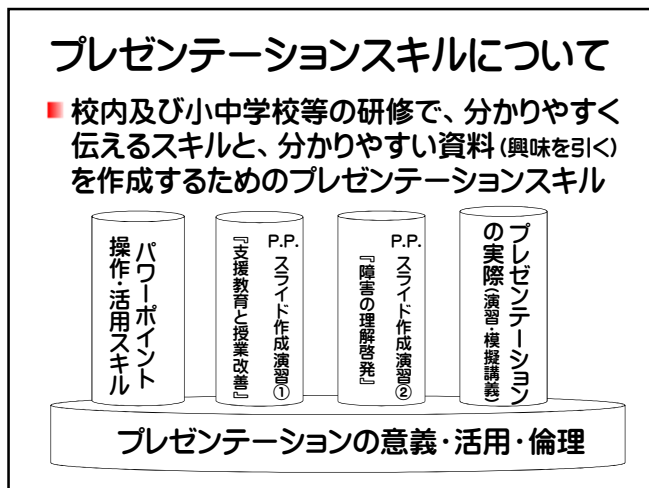
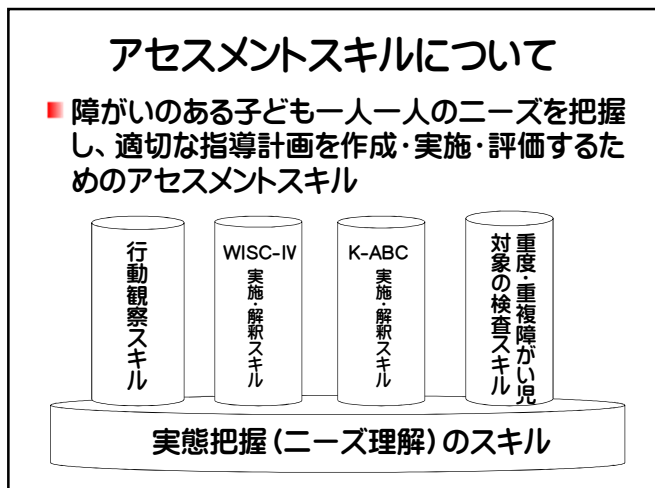
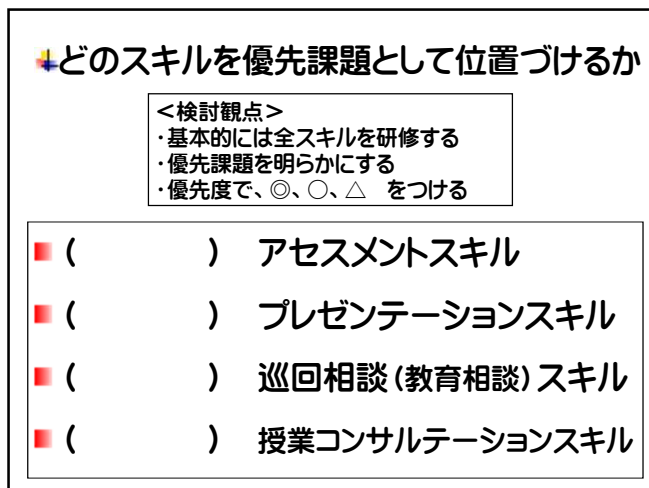
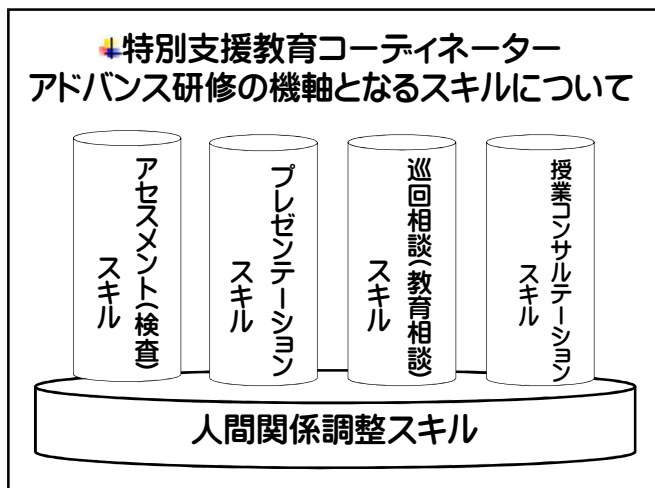
6 この研修内容を通して、さらに研修を積み重ねていく必要性を感じましたか。

ア. 強く思う イ. 思う ウ. 思わない エ. 全く思わない

7 この研修内容をさらに有意義にしていくための工夫として、考えられることを具体的に記述してください。

8 その他(自由記述)

「アドバンス研修の機軸となる4つのスキルについて」




支援教育コーディネーター アドバンス研修でめざす専門性について

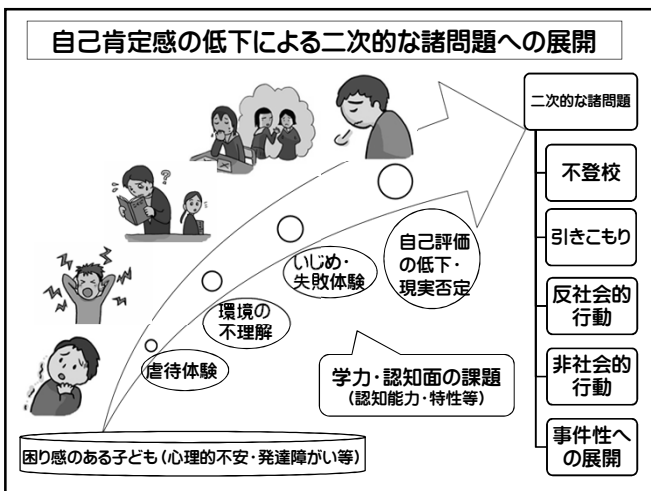
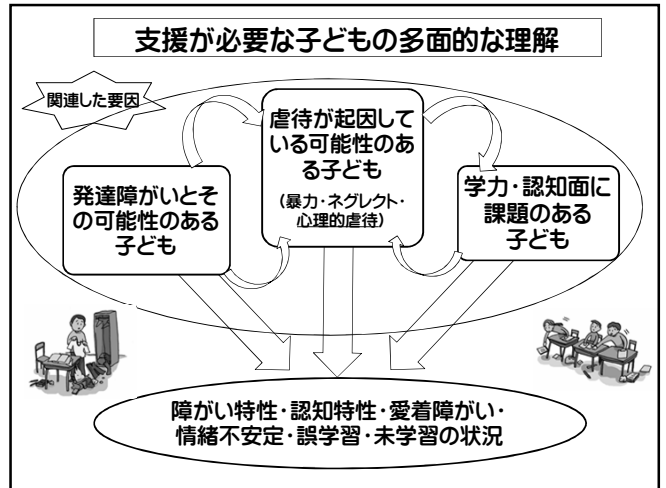


全体の流れ

- (1) 支援教育の現状と課題
- (2) 気になる子どもの理解
- (3) 効果的な指導・支援にむけて
- ナチュラルサポートをめざして -
- (4) 共感からはじまる「わかる」授業づく



支援教育の新たな展開

安心して学べる学校・クラス・集団づくり

安心



居場所

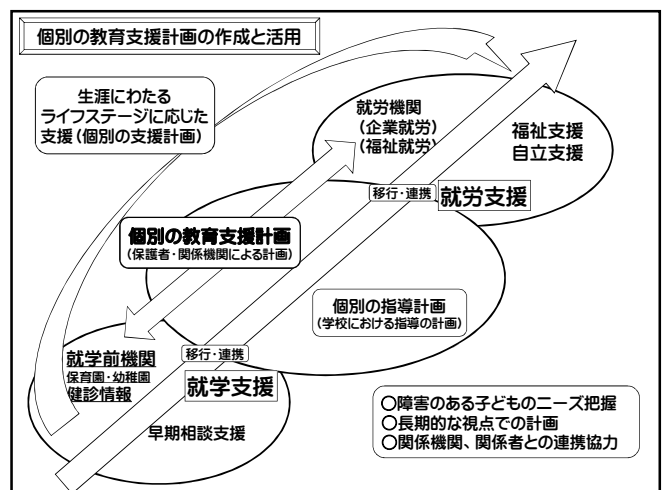
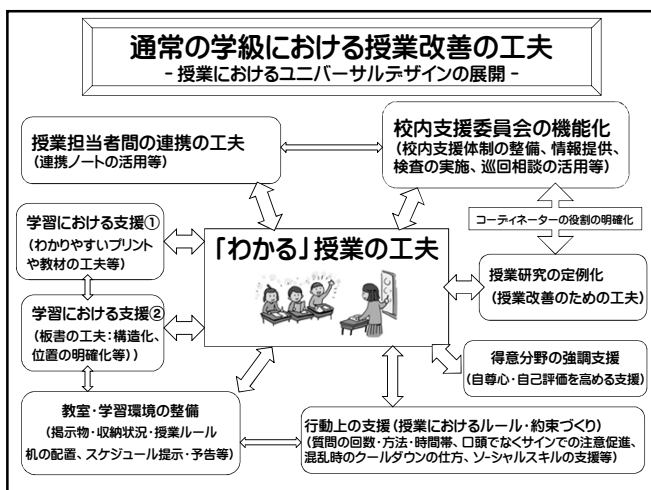
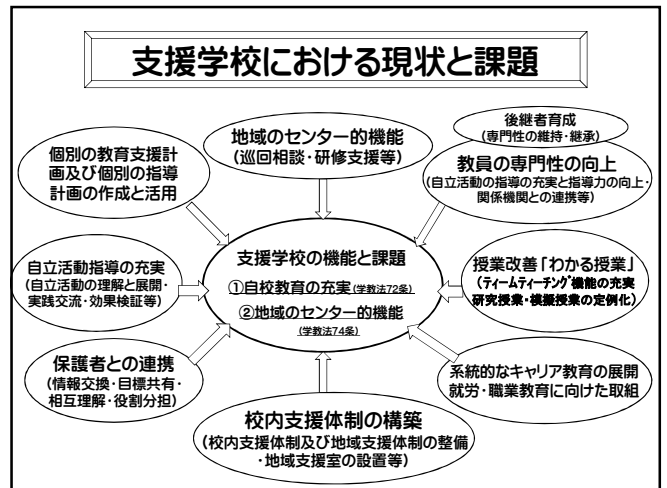
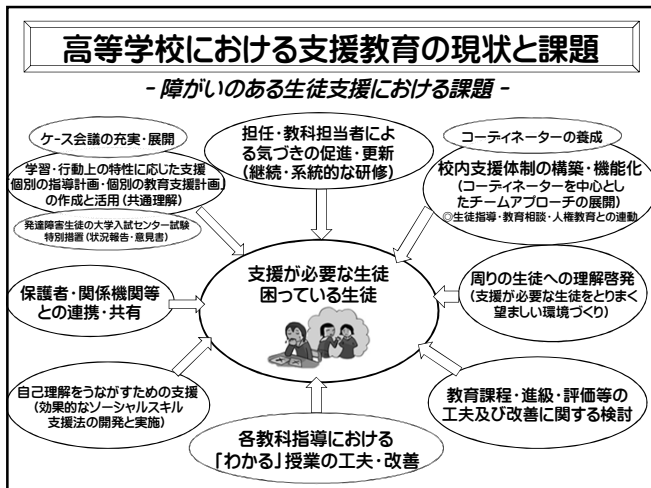
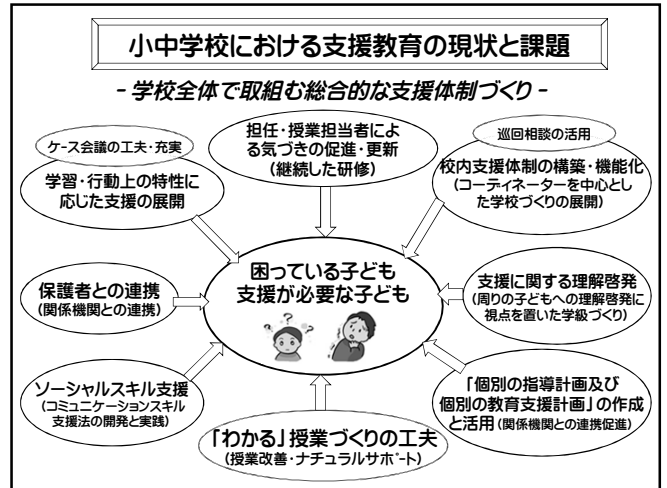
違いを認め合えるクラスづくり



失敗を認め合えるクラスづくり



否定的にとらえないクラスづくり



支援教育の新たな展開と課題

① 教員一人(学級担任等)による支援から学校全体での支援への展開・推進(チームアプローチ・保護者対応)	チーム アプローチ
② 学級担任や障がいのある子どもを組織として支えるための校内支援体制の整備(機動性・系統性・検証)	校内支援 体制整備
③ 個々の子どもの特性を理解し対応する教員の専門性の確保・向上(コ・ティンクター養成・継続的研修)	専門性の 確保・向上
④ 「わかる授業」の推進にむけた支援の充実(基本的知識・研究授業の推進・モデル授業の参観等)	授業改善

⑤ すべての子どもにとって「わかる」「できる」を実感できるナチュラルサポートの充実(教室・学習環境)	ナチュラル サポート
⑥ 支援教育についての子どもや保護者への理解推進(クラスにおける理解啓発・保護者啓発)	理解推進 ・啓発
⑦ 子どもの安全確保と対応方針の確立(危機管理)	安全確保 危機管理
⑧ 専門機関等との連携の推進(巡回相談・支援会議)	機関連携・ つなぐ支援

気になる子どもの理解

✦ 困っている子どもの気づきと理解の観点(例)

- ◇ 興味のある教科とそうでない教科の取組み方に大きな差がある。
- ◇ 板書された内容を、ノートに書きとることができない。
- ◇ 教員の話や指示を聞いていないようにみえる。
- ◇ 自分の考えや気持ちを発表や作文で表現することが苦手である。
- ◇ こだわる時間の切り替えがうまくできないときがある。
- ◇ 学習ルールやその場面だけの約束だけを理解できない。
- ◇ 質問の意図とずれている発表(発言)がある。
- ◇ 授業等の直前に時間割や場所が変更になると対応ができない。
- ◇ 場の雰囲気や暗黙のルールを理解できない。
- ◇ 人に含みのある言葉や嫌味を言われても気付かないことがある。
- ◇ 人の話を字義どおりに理解する。
- ◇ 丁寧すぎる言葉遣いをしたり、反対に、相手を不愉快にさせることをいう。
- ◇ 場面に関係なく、声を出すことや独り言が多い。
- ◇ 順番を待つのが難しい。
- ◇ 特定の物や記号、順序や配列への固執がある。
- ◇ 視線・表情・対人距離などの問題がある。

気づき・理解の深化と更新

■ 気づきから、効果的な支援への展開

他の子どもへの理解啓発

子どもの理解(実態把握)

- ◇ 行動観察から子どもをみる(授業場面、自由場面等)
- ◇ つまずきから子どもをみる(ノート、テスト、作品、情報等)
- ◇ 検査等から子どもをみる(WISC-III等の客観的資料)
- ◇ 保護者からの情報(情報収集・家庭との連携等)

知識と感性を高める継続的な研修

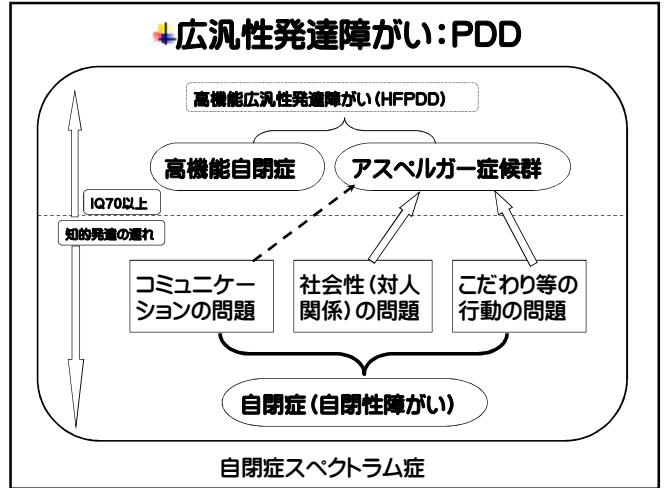
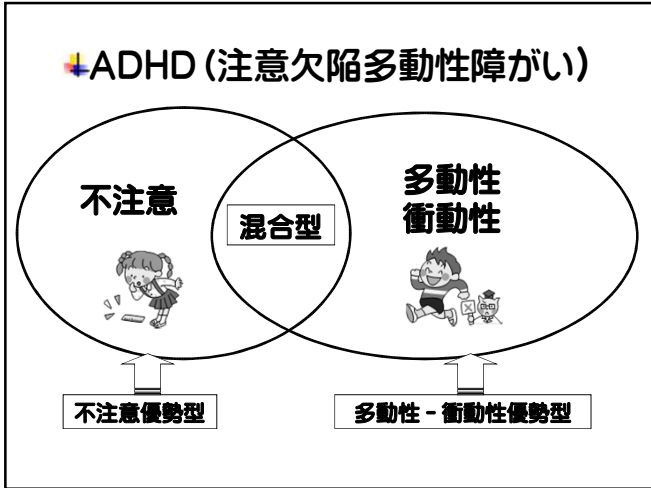
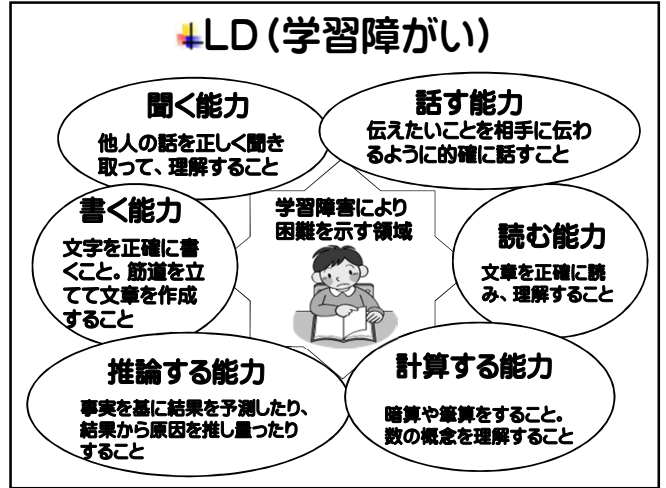
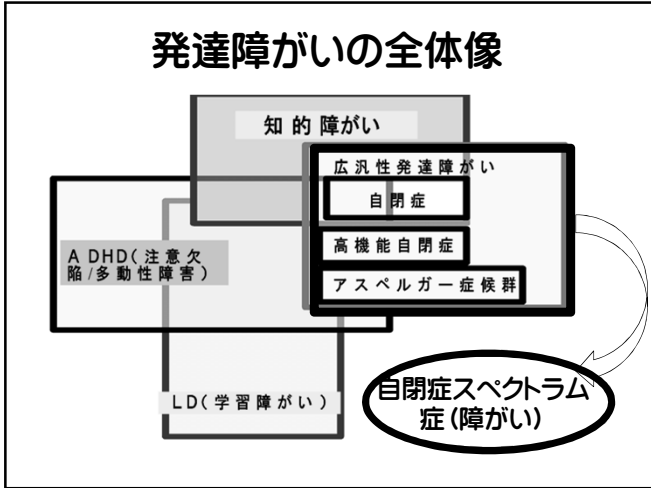
更新

指導・支援・配慮

- ◇ クラス全体への支援(全体性)・個別的支援(個別性)
- ◇ 授業における支援(板書・プリント・提示方法の工夫)
- ◇ 視覚支援(活動の手順・スケジュール、変更・ルール提示)

ICFの考え方と支援の展開について

* 国際生活機能分類(ICF: International Classification of Functioning, Disability and Health)



聴覚の認知に困難があると・・・

- 似た音を聞き間違える
- 聞いていても内容の理解ができない
- 指示がわかりにくい
- 話の内容がどんどんずれていってしまう

さらに短期記憶の弱さが加わると

- 何度も聞き返す
- 複数の用事を成し遂げることが難しい

視覚的認知に困難があると・・・

- 全てのものが同じ強さで目にとびこんでくる
- 他の箇所に焦点が合ってしまう
- 教科書の文字を追えない
- 行をとばし読みする

文字の構成などを掴むことに苦手さがあると

- よく似た文字を読み間違ふ
- 漢字を書くと線が足りなかったり多かったりする

社会的知覚(社会的文脈の理解)に困難があると・・・

相手が誰であろうと同じ調子で話しかける

- ▶ わかりきっていることをずっと話す
- ▶ ことばに添えられた思いを推量できない
- ▶ 周囲の状況が把握できない
- ▶ 冗談が通じない
- ▶ その場の雰囲気理解できない



空間認知に困難があると・・・

- ▶ 鏡文字になる
- ▶ 筆算の桁がずれやすい
- ▶ 図形学習が苦手である
- ▶ 地図の見方がなかなかわからない
- ▶ 前後左右などがすぐにわからない
- ▶ 高さや方向を変えて見ると混乱する



身体操作スキルに困難があると・・・

- ▶ スキップができない
- ▶ 同じ姿勢を保つことが難しく、絶えずからだを動かしている
- ▶ リズムをとるのが苦手
- ▶ 走る、跳ぶなどの動きがギクシャクしていてなめらかさに欠ける
- ▶ ダンスや体操などを模倣したり覚えたりするのが苦手



「困っている生徒」の気づきから、効果的な支援へ



- ◇自分の気持ちをうまく整理して話すことができない。
- ◇困っていることが何か、分らない。
- ◇どうにかしたいと思っている。

どうせできない・できないに決まってる ← 自信喪失・自己評価の低下

気づきが遅れ、適切な対応・支援がなされると・・・ → 問題行動の増幅 二次的な諸問題へ

効果的な指導・支援にむけて

— ナチュラルサポートをめざして —



支援の方向性

- 自尊感情の高揚、自己肯定感の向上にむけて
→ 「できる」自分を認め、周りにも認めてもらうこと。
- 適切な行動へ向けて自己管理能力を高める。
→ 自分の行動の振り返りができるようになること。
- 対人関係技能を身につけること。
→ 他者が自分をどう捉えているのか理解する。
- 投薬の効果が認められる場合がある(医療との連携)。

本人への支援、周囲との関係調整や環境整備など、本人の力を高める観点と環境を調整する両面を視野に入れた指導・支援が必要

障がいや支援に関する理解啓発

- 保護者への理解啓発の工夫
- 周りの子どもの理解を深めるための取組
- 担任教員への具体的支援

理解啓発

(例)

- ◇ 教員(大人)のつき合い方が他の子どものモデルになる
- ◇ ひとりにはそれぞれ違いがある(個性の理解の推進)
- ◇ 一緒に取組むこと、個別に取組むことの大切さを伝える
- ◇ 校内(校外)研修等による生徒の理解の更新
- ◇ 保護者との意見交換・共通理解、役割分担 等



社会性を育むソーシャルスキル支援の展開

- ① 自分の気持ちを伝える(主張する)
- ② 他者からの挑発にのらない
- ③ 他者の意見を受け容れる(受容する)
- ④ 遊びや活動のルールを守る
- ⑤ 困ったときのヘルプ表出の仕方
- ⑥ 共同作業への参加の仕方 等



あいさつ



あやまる



ヘルプ 教えてください等

自己理解の推進にむけた支援

- ○○はできるけど、○○はできない(得意理解が大前提)
○○は得意だけど、○○は不得意等、自分が得意なこと、苦手なこと、直した方がよいことなど、自分の理解の方法を教える(支援する)
- 人との違いの意味と肯定的理解の支援
- 自分の特性等を教員や保護者に聞くスキルの支援
- 好きなこと、熱中できること、得意なことの発見支援
- 心を落ち着ける方法、コツを身に付ける支援
- 啓発書物等の活用 等



保護者との連携

<保護者は混乱している>

- ◆ 障害があるのではないかと疑いに混乱
- ◆ 子どもを責める
- ◆ 自分を責める(育て方について)
- ◆ 原因を追及する



<保護者との連携・支援を考える>

- ◆ 保護者の気持ちの安定が大切(信頼関係を大切に)
- ◆ 子どものよい面をたくさん指摘する(家庭との連絡帳には、よいことを多く書き続ける)
- ◆ 具体的な家庭での支援について提案する

支援の基本

- ① 指示は簡潔に、肯定的な言い方を工夫する。
- ② よいところを探してたくさんほめる
- ③ 視覚的な支援を多用する
- ④ ワンアップ・ワンダウンの気持ちで関わる
- ⑤ 「はじまりとおわりを」明確に示す(予告)
- ⑥ 自己選択・自己決定ができる場面をつくる
- ⑦ 必要以上の叱責はしない(肯定的な言い方)
- ⑧ 「あとで・・・」には必ずあとで対応する



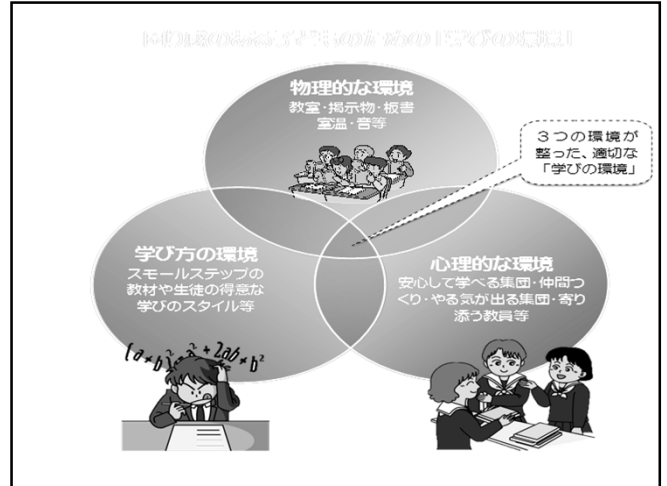
共感からはじまる 「わかる」授業づくり



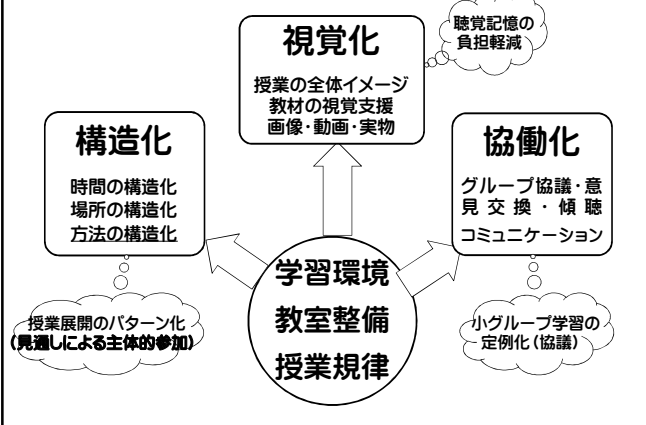
授業におけるユニバーサルデザインのポイント(例)

- 「わかる」授業づくりにむけた授業改善の視点(例) -

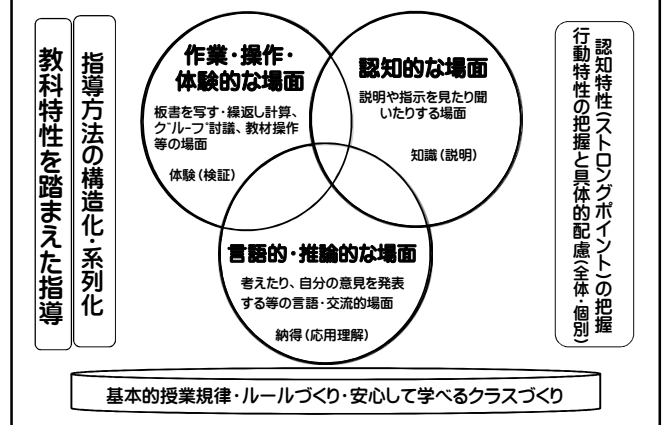
- ①授業の全体構成(流れ)・目当てを明確に示す
- ②教室環境を整える(教室環境の整備・整頓等)
- ③必要な教材/プリント等が机の上にでていることを確認する
- ④板書の工夫(板書の量・書く位置、色の配慮等)
- ⑤「聞くととき」と「書くととき」を区別する(同時にしない)
- ⑥大事なところは2回繰り返し説明する
- ⑦視覚的に提示する教材を工夫する
- ⑧本時のポイントを復習する 等



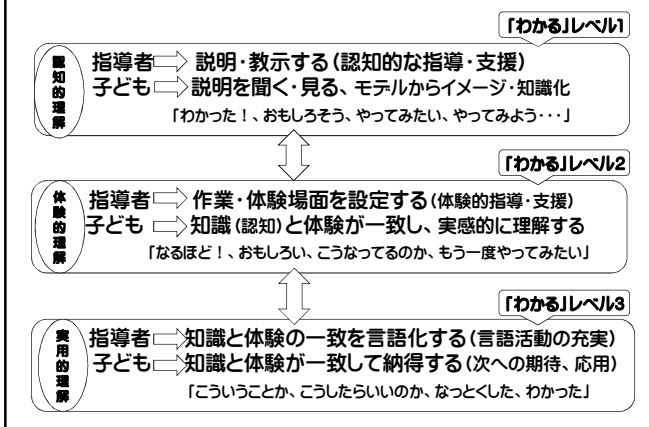
授業の構成を考える3つの視点



授業におけるユニバーサルデザインの構造・要素



「わかる」授業のステップとステージ



授業における自己チェック項目(例)

- 子どもをほめたり、活動に意欲の持てる言葉かけができていますか
- 明るく笑顔で授業ができていますか
- 授業の見通しが持てるようにはじめに全体像を示しているか
- 子どもの反応を待っているか
- 授業の内容に応じた教材・教具を活用できているか
- 視覚的にわかりやすい教材を活用しているか
- 声の強弱や抑揚、緩急をつけ、話し方を工夫しているか
- 子どもが体験・実感できる活動を意識して取り入れているか
- 大切なことは復唱しているか
- 子どもが自己選択、自己決定のできる場を作っているか